

一、われわれは、自由で民主的な社会をつくり、世界の平和と文化国家の発展に貢献する。
 一、われわれは、教育専門職としての使命を自覚し、健全な青少年の育成に努める。
 一、われわれは、社会的責任を自覚し、国民の支持のもとに中正不偏の教育を推進する。
 一、われわれは、教職員の社会的・経済的地位と資質の向上に努める。
 一、われわれは、主体性を尊重し、同志の結集を図る。

全日本教職員連盟(全日教連)ホームページ
 URL: http://www.ntfj.net/

発行所: 全日本教職員連盟(全日教連) 〒102-0083 東京都千代田区麹町3丁目7番地 半蔵門村山ビル TEL.03(3264)3861 毎月10日発行 定価1部50円 (年1,000円送料とも) 会員の購読料は会費の中に含む

教育新聞

The National Teachers Federation of Japan

おもな記事

- 第205回執行委員会……………2面
- 第1回局会議・教研大会情報……………3面
- 教育皆伝、極上の一冊……………4面

要望無くして、改善無し

全日本教職員連盟は、四月二十五日文科科学省に対し、文教予算等に関する要望書を提出し、学校における働き方改革を強力に推進すべく、今日的な教育諸課題への適切な対応を可能とするための更なる基礎定数及び加配定数の拡充や、小学校英語実施における授業時数の堅持等の要望を行った。(以下、主な回答)

文科科学省への要望

○要望一(以下、文)
 文科科学省(以下、文)
 新学習指導要領の円滑な実施と学校における働き方改革のためには、学校や教員の業務・役割分担や適正化とともに学校の指導・事務体制の効果的な強化等が必要となる。

○要望五(以下、文)
 平成二十九年三月末に告示された学習指導要領の内容の全面実施に

向けた準備をしていくことが大切であると考えている。そのため、定数の改善等を含めて、このように先方の要望に応えることができないか、今後よく考えたい。

小学校英語科を導入するに当たり現在、小学校の英語教育推進に関連して、五年の計画で研修を進めており、一年間に二百人、五年間で二千人のリーダを養成している。また、養成したリー

ダーが各地域において中核教員となり、各小学校の教員に対して研修を実施する体制整備に努めているところである。

意見及び回答
 小学校の過当の授業時数について
 全日教連(以下、全)
 現在小学校教員は過当

たり二十八コマという過

現場の声は、全日教連が伝える

〈要望内容〉

一 子供たちに対し、教員の持ち授業時数を軽減することで質の高い教育を行い、今日的な教育諸課題への適切な対応を可能にするため、更なる基礎定数及び加配定数の拡充を図ること
 二 教育の機会均等と教育水準の維持向上、教育環境の地域間格差の是正を図るため、教材費・図書費等、義務教育に係る費用を全額国庫負担とすること
 三 人材確保法の初心に立ち返り、将来に亘って優秀な人材を確保するために、優遇部分の拡充を図ること
 四 教員の勤務の特殊性と実態に見合った適正な教職調整額となるよう見直すこと
 五 小学校の英語科の全面実施に当たっては、現状の授業時数を堅持するとともに、全学級で英語専科教員

による授業が実施できる体制を整えること
 六 教員免許更新制の負担感をなくすとともに、教員の資質・能力の向上につながるよう、研修内容と制度の改善を行うこと
 七 幼児教育の重要性を鑑み、早期に無償化を実現するとともに、幼稚園教諭・保育教諭の処遇面の改善を更に図ること
 八 各学校において部活動がガイドラインに沿って適切に運営されるよう各都道府県を指導すること
 九 六十歳超の再任用については、定数外での任用やそれに伴う予算の確保、勤務の特殊性を踏まえた多様な勤務形態への対応及び職務内容の見直しを行い、より良い制度とするための国の指針を明確に示すこと
 十 学校現場において、政治的中立が堅持された主権者教育が行われるよう指導すること

密な持ち時数の中、授業や授業準備等、子供の成長に資する様々なことを行っている。この二十八コマについて、文科科学省はどのように考えているのか。また、学校における働き方改革の観点から、このコマ数、更には適正な持ち授業時数について文科科学省の見解を聞かせてほしい。

文 新学習指導要領が実施されれば、総授業時数は二十九コマとなる。前回の学習指導要領の改定時における中教審答申を

見ても、二十八コマが実質的に限度であると述べられている。仮に、この二十九コマ目を入れるの

では、今後十分な条件整備が当然必要になると認識している。その一環として、英語の専科指導教員の加配やスクールサポート・スタッフ等を導入し、条件整備を図っている。時数の確保については、我々としても例えばモジュール学習等、弾力的な時間の運用等について、カリキュラム・マネジメントを含めた研究を進めていきたい。また、どのように時数確保ができるのかについても、引き続き研究していきたい。

小学校の英語科の時数確保に関連して、移行期間中の英語科の先行実施

における総合的な学習の時間の取扱いについては、現在調査をしている。文科科学省としてその結果をきちんと踏まえ、全日教連が要望している時数の堅持について引き続き考えたい。

全 平成二十年の中教審答申「過当の授業時数は二十八コマが限界」は、どこまで拘束力、効力があるのか。平成二十年と比べ、学校現場は更に忙しくなっているが、

文 中教審の答申である以上、文科科学省としては重く受け止めている。そしてそれを受けた政策を展開していくというスタンスは変わりはない。ただ、百パーセントに沿ったものになっているかと言われれば違う部分もあるが、中教審で示されたものには従う。最新の答申では時数に関する言及がなかったが、新たに条件整備を進める」という文言が加わった。これまで教育課程、指導要領に係る部分のみであった答申が、条件整備もセットで初めて語られた。だからこそ今年度、英語を中心とした定数措置という条件整備も含めて予算確保してきたところである。教職員定数改善計画について

全 基礎定数及び加配定数の改善について、英語専科指導教員一千人を含む千五百九十五人の定数改善が図れるよう努力したい。英語専科教員以外に関して、全日教連の考えを聞かせてほしい。

教研大会開催地 委員長インタビュー



上原委員長独占インタビュー

(詳しい内容は三画)

全 いじめ・不登校等の教育諸課題に対応する加配特に中学校であれば生徒指導を専任で担当する教員が必要となる状況が多くあるという報告が会員からあがってきている。子供たち一人一人としっかり関わる中で、子供の成長に資する時間を確保できるような条件整備が今求められていると感じる。そういった現状から、措置数に関して不安な声も聞かせる。

小学校英語専科指導教員について

全 英語専科加配一千人についての要件があるが、これは非常にハードルが高いと感じている。

①中学校又は高等学校英語の免許状を有する者
 ②二年以上の外国語指導助手(A・L・T)の経験者
 ③CEFR・B2相当以上の英語力を有する者
 ④海外大学、又は青年海外協力隊若しくは在外教育施設等で二年以上の英語を使用した海外留学・勤務経験のある者

この要件からは、文科科学省の本気の表れを感じるが、果たして小学校英語専科がどれだけ登録するのかという不安も感じている。実際一千人の配置の内、この基準を満たして採用されているのは何名か。もし一千人の採用が難しいのであれば、四千人は多いかと思う。

文 文科科学省として加配の振替(他の加配に充てる)は認めていない。今度、各自自治体に対して、四要件のどれで採用したのか調査を実施する予定である。申請段階ではほとんどが①であって、詳細にヒアリングを行っていないため、様々な要件が重なっている可能性はある。

予算措置が実質的に決まったのが年末であり、そこから各自自治体が英語専科教員の確保に動き始めた。期間が短いため、今年度一千人確保できなかったとしても、これから各自治体の努力・工夫により確保されていくものと考えている。

全日教連事務局での勤務が四年目に入った。これまで全国の同志をはじめ多くの方々の御縁をいただき、様々なことを学ばせていただいた。その中でも、教育関係以外の情報からは気付けられることが多い。

◆教員以外の職に就いたことのない私は、学校や子供やその周辺の社会については一応理解しているつもりではあるが、いわゆる「世の中」ではどんなことが起きているのかということについては、知らなかったり、時代遅れになっていたりしていると感じることが多々ある。◆ある推計によれば、現在、「結婚して、出産して、添い遂げる」という「昭和の標準的の人生」を歩む女性は五十八%なのだそう。同様に「正社員になり定年まで勤めあげる」という「昭和の標準的の人生」を歩む男性に至っては二十

七%しかないのだそうである。これは、私にとっては驚きの数字であった。◆この様な状況については様々な御意見があるろうかと思われるが、少なくとも、私たちが日々向き合っている子供たちが飛び込んでいく世の中の動きについて、私たちが教職員は、アンテナを高めて、アップデートされた情報を基に、日々の教育実践を行っていく必要がある。

全日教連事務局での勤務が四年目に入った。これまで全国の同志をはじめ多くの方々の御縁をいただき、様々なことを学ばせていただいた。その中でも、教育関係以外の情報からは気付けられることが多い。

◆教員以外の職に就いたことのない私は、学校や子供やその周辺の社会については一応理解しているつもりではあるが、いわゆる「世の中」ではどんなことが起きているのかということについては、知らなかったり、時代遅れになっていたりしていると感じることが多々ある。◆ある推計によれば、現在、「結婚して、出産して、添い遂げる」という「昭和の標準的の人生」を歩む女性は五十八%なのだそう。同様に「正社員になり定年まで勤めあげる」という「昭和の標準的の人生」を歩む男性に至っては二十

七%しかないのだそうである。これは、私にとっては驚きの数字であった。◆この様な状況については様々な御意見があるろうかと思われるが、少なくとも、私たちが日々向き合っている子供たちが飛び込んでいく世の中の動きについて、私たちが教職員は、アンテナを高めて、アップデートされた情報を基に、日々の教育実践を行っていく必要がある。

全日教連事務局での勤務が四年目に入った。これまで全国の同志をはじめ多くの方々の御縁をいただき、様々なことを学ばせていただいた。その中でも、教育関係以外の情報からは気付けられることが多い。

◆教員以外の職に就いたことのない私は、学校や子供やその周辺の社会については一応理解しているつもりではあるが、いわゆる「世の中」ではどんなことが起きているのかということについては、知らなかったり、時代遅れになっていたりしていると感じることが多々ある。◆ある推計によれば、現在、「結婚して、出産して、添い遂げる」という「昭和の標準的の人生」を歩む女性は五十八%なのだそう。同様に「正社員になり定年まで勤めあげる」という「昭和の標準的の人生」を歩む男性に至っては二十

七%しかないのだそうである。これは、私にとっては驚きの数字であった。◆この様な状況については様々な御意見があるろうかと思われるが、少なくとも、私たちが日々向き合っている子供たちが飛び込んでいく世の中の動きについて、私たちが教職員は、アンテナを高めて、アップデートされた情報を基に、日々の教育実践を行っていく必要がある。

全日教連事務局での勤務が四年目に入った。これまで全国の同志をはじめ多くの方々の御縁をいただき、様々なことを学ばせていただいた。その中でも、教育関係以外の情報からは気付けられることが多い。

◆教員以外の職に就いたことのない私は、学校や子供やその周辺の社会については一応理解しているつもりではあるが、いわゆる「世の中」ではどんなことが起きているのかということについては、知らなかったり、時代遅れになっていたりしていると感じることが多々ある。◆ある推計によれば、現在、「結婚して、出産して、添い遂げる」という「昭和の標準的の人生」を歩む女性は五十八%なのだそう。同様に「正社員になり定年まで勤めあげる」という「昭和の標準的の人生」を歩む男性に至っては二十

七%しかないのだそうである。これは、私にとっては驚きの数字であった。◆この様な状況については様々な御意見があるろうかと思われるが、少なくとも、私たちが日々向き合っている子供たちが飛び込んでいく世の中の動きについて、私たちが教職員は、アンテナを高めて、アップデートされた情報を基に、日々の教育実践を行っていく必要がある。

全日教連事務局での勤務が四年目に入った。これまで全国の同志をはじめ多くの方々の御縁をいただき、様々なことを学ばせていただいた。その中でも、教育関係以外の情報からは気付けられることが多い。

◆教員以外の職に就いたことのない私は、学校や子供やその周辺の社会については一応理解しているつもりではあるが、いわゆる「世の中」ではどんなことが起きているのかということについては、知らなかったり、時代遅れになっていたりしていると感じることが多々ある。◆ある推計によれば、現在、「結婚して、出産して、添い遂げる」という「昭和の標準的の人生」を歩む女性は五十八%なのだそう。同様に「正社員になり定年まで勤めあげる」という「昭和の標準的の人生」を歩む男性に至っては二十

視点

全日教連事務局での勤務が四年目に入った。これまで全国の同志をはじめ多くの方々の御縁をいただき、様々なことを学ばせていただいた。その中でも、教育関係以外の情報からは気付けられることが多い。

◆教員以外の職に就いたことのない私は、学校や子供やその周辺の社会については一応理解しているつもりではあるが、いわゆる「世の中」ではどんなことが起きているのかということについては、知らなかったり、時代遅れになっていたりしていると感じることが多々ある。◆ある推計によれば、現在、「結婚して、出産して、添い遂げる」という「昭和の標準的の人生」を歩む女性は五十八%なのだそう。同様に「正社員になり定年まで勤めあげる」という「昭和の標準的の人生」を歩む男性に至っては二十

七%しかないのだそうである。これは、私にとっては驚きの数字であった。◆この様な状況については様々な御意見があるろうかと思われるが、少なくとも、私たちが日々向き合っている子供たちが飛び込んでいく世の中の動きについて、私たちが教職員は、アンテナを高めて、アップデートされた情報を基に、日々の教育実践を行っていく必要がある。

全日教連事務局での勤務が四年目に入った。これまで全国の同志をはじめ多くの方々の御縁をいただき、様々なことを学ばせていただいた。その中でも、教育関係以外の情報からは気付けられることが多い。

◆教員以外の職に就いたことのない私は、学校や子供やその周辺の社会については一応理解しているつもりではあるが、いわゆる「世の中」ではどんなことが起きているのかということについては、知らなかったり、時代遅れになっていたりしていると感じることが多々ある。◆ある推計によれば、現在、「結婚して、出産して、添い遂げる」という「昭和の標準的の人生」を歩む女性は五十八%なのだそう。同様に「正社員になり定年まで勤めあげる」という「昭和の標準的の人生」を歩む男性に至っては二十